



サンプル版

# 回りのふりして 脱法露出!

合法ロリでも外で脱いだら違法です!!



破滅乱淫  
オーガズム



もくじ

プロローグ

第1章 そうだ、ロリのふりをしよう！

第2章 街なか散歩で胸チラパンチラし放題！

第3章 たのしい！ 気持ちいい！ 公園でノーパン遊び！

第4章 男湯潜入合法ロリ（23）、サウナで絶頂！

第5章 完全アウト！ 噴水広場で全裸露出！

エピローグ

もうひとつのエピローグ

おまけ イラスト集



# キャラ紹介

## ひめむろ りりか 姫室 璃々花

23 歳。丸の内の企業に務めるOL。  
就職にともない上京し、現在ひとり暮らし。  
ミニマムな見た目のせいでロリコンしか寄りつかず、  
かれこれ8年も彼氏がない。当然常時欲求不満。  
仕事が激務で気持ちがダークになりがち。

### ◎からだ

身長 142cm

体重 37kg

バスト 平たい

ウエスト 細い

ヒップ 貧しい

### ◎趣味

オナニー

飲酒

呪いリストづくり

### ◎好き

ホラー映画

デスメタル

他人の不幸



# 第5章

完全アウト！  
噴水広場で全裸露出！



全裸で外を歩きたい。

銭湯での露出を経て、あたしはもうそこまでしないと満足できなくなっていた。考えた末に思いついたのは、水場のある公園での露出だった。

調べてみると、電車で小一時間ほどの距離に、

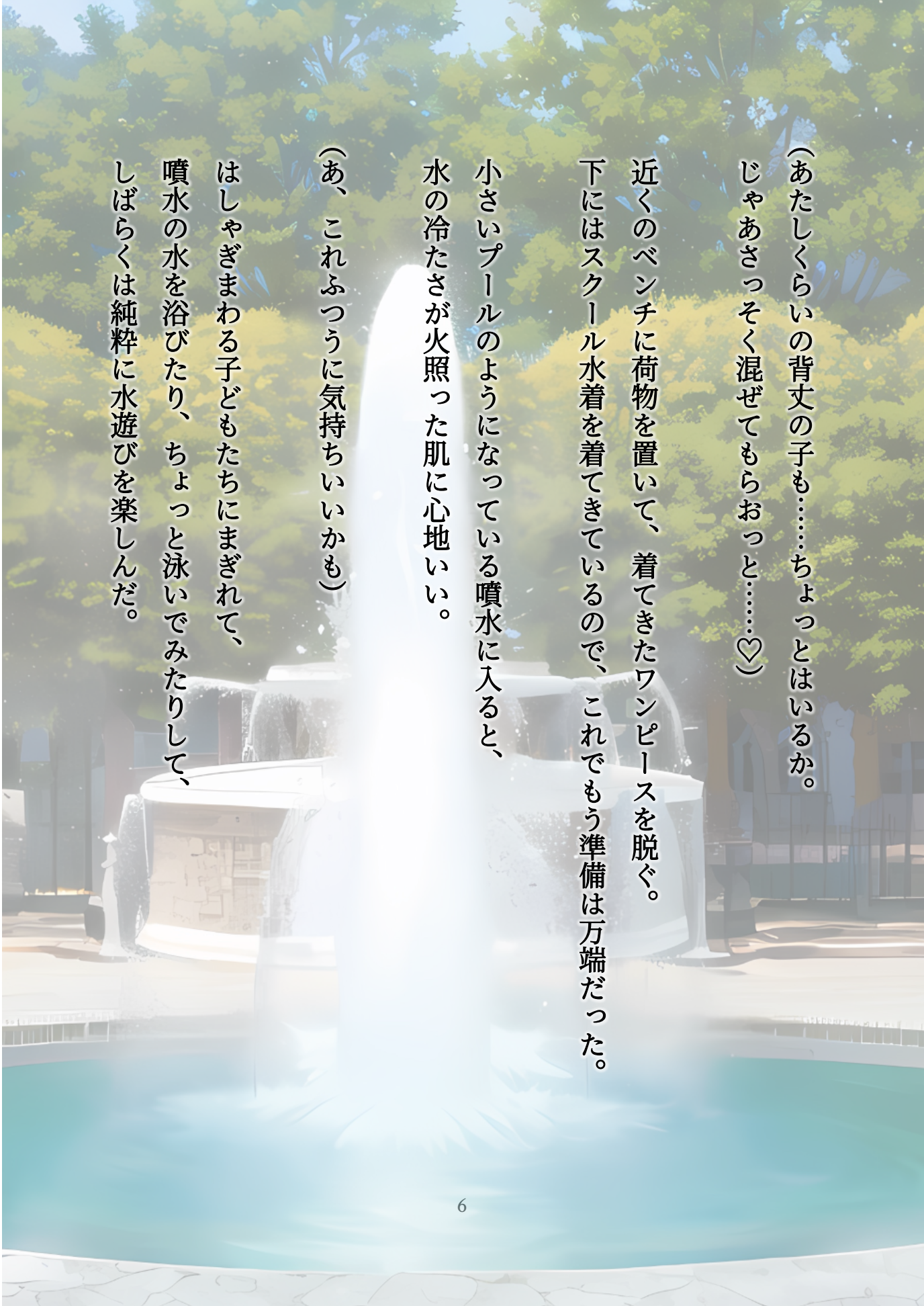
噴水広場のある大きな運動公園があるのを知り、さっそく出かけることにした。

おりしも世間は夏休み。

公園はたくさんの親子連れでにぎわっていて、

噴水広場では水着姿の子どもたちが無邪気に水遊びを楽しんでいた。





（あたしくらいの背丈の子も……ちよつとはいるか。  
じゃあさっそく混ぜてもらおつと……♡）

近くのベンチに荷物を置いて、着てきたワンピースを脱ぐ。

下にはスクール水着を着てきているので、これでもう準備は万端だった。

小さいプールのようになっていいる噴水に入ると、

水の冷たさが火照った肌に心地いい。

（あ、これふつうに気持ちいいかも）

はしゃぎまわる子どもたちにまぎれて、

噴水の水を浴びたり、ちよつと泳いでみたりして、

しばらくは純粹に水遊びを楽しんだ。



(ここからはどこまでやれるかわかんないけど……)

ベンチまで戻って、いちかばちか、スクール水着を脱ぎ捨てた。

(ああああ……すっごい開放感……♡)

濡れた素肌を、夏の空気がくまなくじかに撫でていく。

(やったやった、やっちゃった……♡)

真っ昼間に、脱ぐべきじゃない場所で、

大勢の服着た人たちのなかで、あたしひとりだけが全裸……♡

最っっっ高に気持ちいい……♡)



様子見でベンチに数分座っていても誰もなにも言っていないので、そのまま水遊びを続行することにした。

全裸で噴水に入り、太陽のもとで水しぶきを全身で浴びる気持ちよさ。

かなり小さい子でもちゃんと水着や服を着てるのに、

23歳成人のあたしだけが乳首もまんこもお尻も丸出しにして、  
たったひとり全裸でいることの気持ちよさ。

（あ……むこうのパパたち、こっち見てる……♡

そうだね、子どもでも人前で裸になるような背格好じゃないんだもん♡

あの人……カメラ向けてるのは自分の子どもにだよな？

こんなとこで全裸でいるの撮られたらヤバイ……

ああ……でもなんか、もういつか……♡

撮られてもネットに流すことはないだろうし……♡）







仰向けに浮いたり、

お尻をうしろに突き出したり、

大きく脚を開いたりして、

思う存分、見たい人たちには見せつける。

（もう最高すぎる……♡

長時間、外で全裸でいっぱい見られまくってる……♡

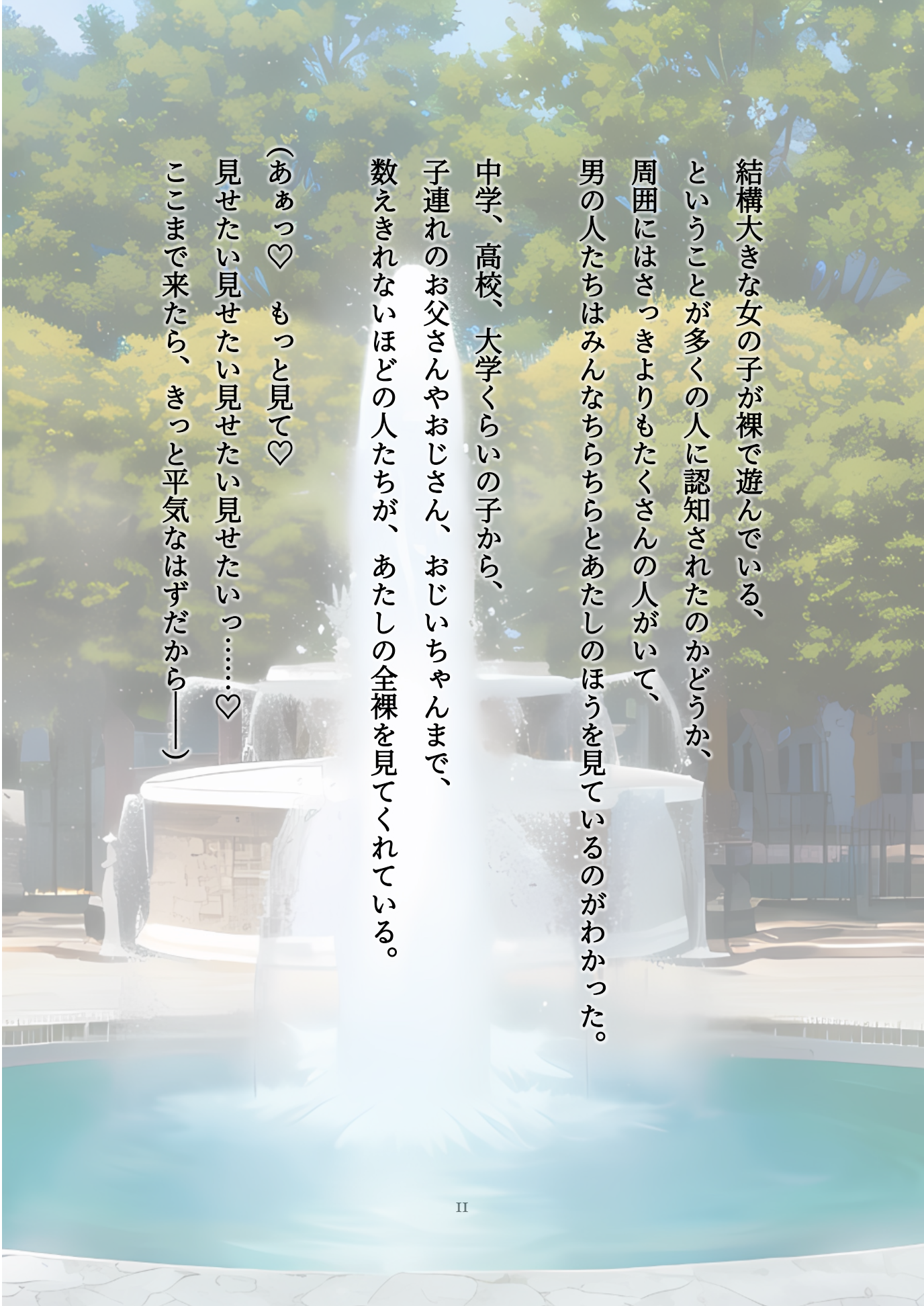
これ毎日でもやりたいくらい……♡）

でも、さすがにちよつと身体が冷えてきた。

いったん噴水からは上がることにして、

ベンチへ戻って濡れた身体をタオルで拭う。





結構大きな女の子が裸で遊んでいる、  
ということが多くの人に認知されたのかどうか、  
周囲にはさっきよりもたくさんの人がいて、  
男の人たちはみんなちらちらとあたしのほうを見ているのがわかった。

中学、高校、大学くらいの子から、  
子連れのお父さんやおじさん、おじいちゃんまで、  
数えきれないほどの人たちが、あたしの全裸を見てくれている。

（あぁっ♡ もっと見て♡  
見せたい見せたい見せたい見せたいっ……♡  
ここまで来たら、きつと平気なはずだから——）



あたしはベンチを離れ、噴水を通り過ぎて、公園の奥へと向かって全裸のまま歩き出した。

噴水広場を出てしまうと水着姿の子たちもいなくなり、誰もがきちんと服を着て歩いている。

（ヤバイヤバイヤバイヤバイ……♡

これはさすがに目立ちすぎる……♡

みんな服着てるのに、あたしひとりが素っ裸♡

裸でいていいわけないところで生まれたままの裸♡

ううん、恥ずかしいとこだけスケベに育ったいやらしい裸♡

ああつ、見られてる、超見られてるっ♡

あたりまえだね、裸でいたらおかしいんだもん♡

なんか言われたら噴水の場所わかんなくなっちゃって言えばいいし♡







いけるとここまで裸でいきたい♡  
イキたいイキたいイキたいイキたい……♡)

驚いた顔で見つめてくる人たちの合間を縫って、  
あたしは全裸のままぐんぐん公園を進んでいく。

(あつ、うそ、もうこんなほうまで……)

10分ほど裸で歩いてきたのだろう、  
入ってきたのとは逆側の出入口近くまでやってきていた。

公園を取り囲む木々のあいだから、外の道や住宅も見えている。

(そっか、もうすぐ先はふつうの道なんだ……)



どくん、と大きく胸が鳴った。

このまま行けば、裸で一般道にまで出てしまう。

そこまでしたら、いくらなんでもただでは済まない。

でも出たい。

けど出るべきじゃない。

出たい。

出るべきじゃない。



出たい出たい出たい。

出ちゃいけない。

出たい出たい出たい出たい出たい。

(……だめっ！)

出入口間近まで来たところで、

あたしはすぐ脇の茂みのなかへと分け入っていった。

もうがまんできなかった。

少し奥まったところまで行って腰を落とすと、

すぐに指を膣奥まで突き入れた。



続きはぜひ製品版でお楽しみください！